

ベーツヤサカミキリ

Leptoxenus ibidiiformis Bates

コウチュウ目カミキリムシ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー なし

選定理由

南方系の種で、本県が国内分布の北限である。生息地は加賀南部に限られ、開発等により生息地が狭小化している。

形態

体長は11～15mm。体は細く、脚が長い。体色は淡黄褐色～赤褐色で、上翅に濃淡の斜帯がある。触角は細く、長さはオスで体長の1.5倍弱である。

国内分布

本州（中部以西）、四国、九州、対馬。

県内分布

加賀市（福井県境～橋立地区の沿岸部）。

生態

本県では、沿岸部のタブノキの大木が残された照葉樹林に生息する。成虫は4月下旬～6月頃に出現し、タブノキの新しい枯れ枝やスダジイ、クリの花に飛来する。幼虫はタブノキの新しい枯れ枝を食する。秋に羽化し、そのまま枝内の蛹室にとどまり、越冬する。

生息地の条件

タブノキの大木の残る林があることが重要である。

生存の危機

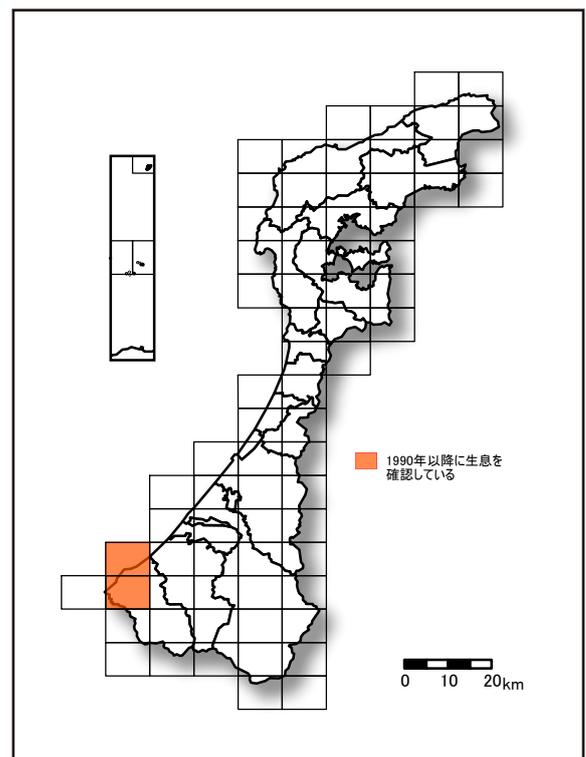
加賀市沿岸部のタブノキ、スダジイなどの大木が残された照葉樹林は、伐採や土地開発等により確実に減少しているため、これらの照葉樹の保全が重要である。(A)

参考文献

井村正行 1998. コウチュウ目カミキリムシ科. 石川県の昆虫: 197-217. 石川県自然保護課.



写真提供者: 富沢章



県内の分布